

環境と健康

脱温暖化推進員フォーラム2026

冬に実践できる取り組みを学ぶ 最新家電情報やバイオマスなど

2月6日にエールエールA館(広島市)において、「脱温暖化推進員フォーラム2026」を開催し、地球温暖化対策地域協議会など、県内各地で温暖化防止活動に取り組む24団体72人が参加しました。

今年度は、「脱温暖化」で協議会・推進員の活動を盛り上げていくとともに、広島県が実施する「冬の光熱費節約チャレンジ」キャンペーンをテーマとして、冬に

すぐに実践できる取り組みの情報提供を行い、実践に繋げました。

午前中は、エディオン 広島市東区中野町9番1号に「冬の最新家電」について、永本建設株式会社代表取締役永本清三さんに、「バイオマスは地域活性エネルギー」と題して、情報提供いただきました。

午後からは3つの分科会に分かれて実施しました。

分科会①「冬の温活セルフケア」
日本セルフお灸協会 代表で鍼灸師の松本武司さんにお灸や指圧で身体を温めることで、暖房器具の設定温度を低く抑え、省エネに繋がることを学びました。省エネだけでなく、自分の健康に責任を持ち、ケアできることに共感しました。

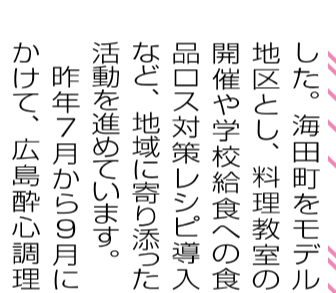
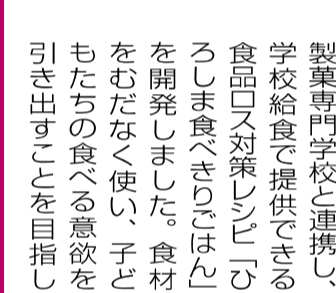
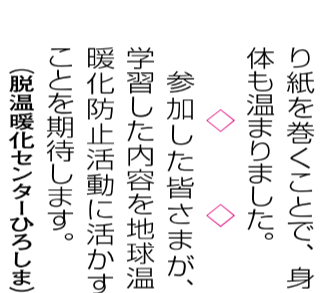
分科会②「冬の最新家電情報」
エディオン 広島市東区中野町9番1号に、武政良治さんに暖房器具と加湿器を中心に最新家電をご紹介いただき、実際に試しました。午前の講義に加え実物を見ることで、暖房器具への理解が深まりました。

分科会③「ペーパー鉛筆ワークショップ」
広島市地球温暖化対策地域協議会シヨガニヒデシヨさんに、チラシや新聞を使った「ペーパー鉛筆」の作り方を学

びました。ペーパー鉛筆には、植物の種を予め入れて巻くことで、芯を全て使った後、そのまま土に植えて植物を育てるといふ、ごみが出ない工夫がされています。また、手ごっか

り紙を巻くことで、身体も温まりました。

参加した皆さまが、学習した内容を地球温暖化防止活動に活かすことを期待します。
(脱温暖化センターひろしま)



食品ロス対策レシピを開発

料理教室や学校給食へ

脱温暖化センターひろしまでは、今年度広島県温暖化対策活動促進補助金を活用し、食品ロス削減に向けた新たな取り組みを始めました。

昨年7月から9月にかけて、広島県心調理製菓専門学校と連携し、学校給食で提供できる食品ロス対策レシピ「ひろしま食べきりごはん」を開発しました。食材をむだなく使い、子どもたちの食べる意欲を引き出すことを目指し

た献立で、県産食材の魅力も感じられる4品「野菜たくさんトライカレ」「レモン香るだもんライス」「音戸ちりめんと野菜のかき揚げでがんす」「チー坊@せりー」が完成しました。また、10月と12月には海田町教育委員会、海田町公衆衛生推進協議会の協力のもと、大人向け、子ども向けの料理教室を開催しました。レシピを作成した専門家を講師とし、参

加者が家庭や学校、地域で食品ロス対策の調理を他者に伝えることができるよう、食品ロスの現状や調理技術を学ぶ教室としました。今年1月には、海田町内の4小学校で「野菜たくさんトライカレ」約2千食が給食として提供されました。



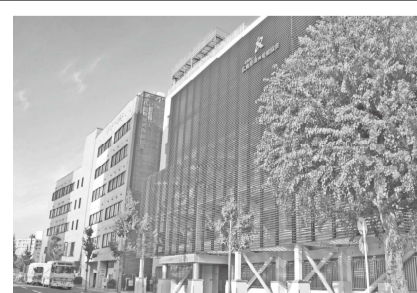
「ひろしま食べきりごはん」のレシピはこちら

「いつものカレーより少し辛かったけど、おいしかった。」「本当はナスが嫌いだけど、今日のカレーのナスはおいしかった。」など、子どもたちから笑顔とうれしい感想が寄せられました。食品ロスを減らすことは、地球温暖化対策にもつながります。今後も学校給食を通じて、楽しみながら環境について考える機会を広げていきます。
(脱温暖化センターひろしま)

知事を退任して気になるのは音である▼現職時代は、ひっきりなしに職員が打合せに入り、お客様もいらつしやると、部屋に独りでいても資料を読んだり何かを書いたり、常に何かに集中していたように思っ▼そのような常時集中状態から解放されて、ゆとり思考を巡らせたりこの原稿のようなものについて考えていると、ふと周りの音が耳に入ってくる。今いる事務所は白島線に面しているから、車が線路を横切るタタタツという音、電車が加速するブーンというモーター音、歩行者用信号のピヨピヨ、自転車のキーキーというブレーキ音、カタカタカタというキーボードを打つ音などが耳に入ってくる。それらはとどろきなく、果てしない。そして、その音に集中すると、とても心地よいことに気がされる。

心地よい音

雪の中の別荘などになると、雪があらゆる音を吸収して、無音になる。それがまた気持ちよい。薪ストーブを焚いていると、時折パチンとはじける音がし、心の中のメーターの針がぴんと反応する▼こういう音をASMRというとのこと。日本語にすると自律感覚絶頂反応。要するに「脳がとろける」といっていい▼そして最近、このASMRの最高傑作が広島にあることを知った。「ひつひきもつき」。長崎屋が販売している、牡蠣殻で型をとったレモンコーティングのパイのお菓子だ。「ひつひきもつき」という独特の音がASMRとして紹介された途端、売切れ状態だそう。実際、これまで経験したことのないような心地よい音。もちろん、美味しい▼世の中にはいろんな幸せがある、とこのことをかみしめるこの頃である。
(前広島県知事 湯崎英彦)



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

かんほきよう

検索

基本理念

みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。



HACCP講習会を開催 食の安全性向上のために

熱心に講義を聴く受講者



1月28日(水)〜30日(金)に当協会主催の「2025年度HACCP講習会」を開催

この講習会の特徴はグループ演習で、メンバー間で意見を出しながらプランを構築していきます。実践型で、それぞれが自社に戻ってから、HACCPプランの見直し、再構築など役立つ内容になっています。最終日の最後にテストを受け、合格し、修了証を手にしたときの受講生の安堵の顔を見ることが、主催者としても嬉しい瞬間です。

県地域猫活動ガイドライン改正 住民同士で話し合いを

このたび広島県では、改めて県民の皆さまに対し、飼い主のいない猫に関する問題を身近に受け止めていただくことを目指し、地域猫活動ガイドラインを改正しました。

「地域猫活動」とは、地域住民の十分な理解の基に、飼い主のいない猫への不妊去勢手術の徹底や給餌・排せつ物の管理などを行う活動です。

地域猫活動を行うことで、猫の生活の安定と、地域住民の猫に関する苦情減少につながる事が期待されます。

ただし、地域猫活動による効果をしっかり得るためには、考え方の異なる地域住民同士が話し合える場が必要です。これは、住民が主体的に地域課題など

を共有し、解決に向けてともに活動してこうとする「地域づくり」の考え方に通ずるところがあります。

飼い主のいない猫をはじめとして、地域における動物問題は、住民同士の感情的な対立と結び付きがちですが、まずは課題を客観的に見つめ、住民間で共有してみましょ。その上で、猫の生態や地域猫活動のコツなど専門的な部分については、今回改正したガイドラインで紹介していますので、参考してみてください。

地域猫活動についてもっと知りたい場合は、県内の各動物愛護センターに相談できます(広島市、呉市、福山市にお住まいの場合は各市の動物愛護センター、それ以外の市町にお住まいの場合は県の動物愛護センター)。活動の条件が合えば、行政から手術の支援が受けられる場合もあります。また、独自に活動支援の仕組みを整備している市町もあります。

猫と上手に共生できる地域が少しでも増えれば、とてもうれしいです。

(広島県健康福祉局食品生活衛生課)



地域猫活動に関する情報はこちらから



読者アンケートにご協力いただきありがとうございました

令和7年11月1日から12月31日にかけてアンケート調査を実施し、45人の読者から回答が寄せられました。紙面サイズについては、現行のタブロイド判が51%と半数を占め、次いでA4版が29%、デジタルデータが20%という結果となりました。また、文字のサイズや情報量、紙面の見やすさについては現状で問題ないとの意見が多数でした。

二次元コードを用いた読者アンケートは初めての試みで、回答方法の説明記事の掲載などを行いましたが、回答数は例年よりも少ない結果となりました。

今回の調査結果を十分分析し、今後の情報紙づくりに活用してまいります。ご協力ありがとうございました。

(地域活動支援センター)

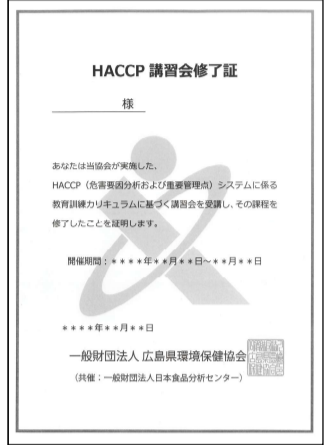
興味のあるテーマ TOP4

1	防災・減災
2	循環型社会の構築
3	低炭素社会の構築
4	食の安全 病気や疾病予防 公衛協の活動

しました。中国エリアを中心に、関西、四国、九州、エリアの、食品事業23社から34人が受講しました。講習会は3日間コースとなっており、HACCPの構築手順からプラン作成まで、講義とグループ演習で構成されています。受講生は、経営者をはじめ、製造部門、品質管理部門、営業部門などのベテランから若手と、さまざまな立場の方々が集まりました。本講習会は、昨年度から一般財団法人日本食品分析センターと共催し、今回で2回目となります。

3日間、講義室で缶詰め状態の研修のため、昼食のお弁当やコーヒープレイクのおやつにも工夫をしながら、充実した講習会にしていきたいと思えます。講習の内容を、自社の食の安全性の向上に役立てていただくと幸いです。来年度も皆さまのご参加をお待ちしております。

(食品衛生課 和田貴臣)



配布した修了証

廃棄物処理施設の精密機能検査とは

暮らしを支える施設を守るために

ごみ処理施設やし尿処理施設、リサイクル施設などは、毎日の生活で出る廃棄物を安全に処理するために欠かせない施設です。これらの施設は市町や一部事務組合が管理し、地域



の衛生環境を守る役割を担っています。こうした施設が長期間にわたり、安全かつ安定して稼働し続けるためには、日常の点検や保守作業に加えて、法律に基づき施設の機能や設備の状態を詳しく確認する「精密機能検査」を定期的に行う必要があります。

この検査は、車の定期点検のようなもので、故障が発生する前にその兆候をみつけ、適切な対策を講じるための大切な検査です。この精密機能検査は、われわれが建築士や技術士として、これまで培った技術、経験を活かして実施し、施設の現状を分析し、必要に応じて改善の提案を行うことで、施設の長寿命化や安全性の向上につな

げていきます。検査は、「書類検査」↓「現地調査」↓「処理機能等の評価」↓「改善案の提示」の順に進みます。「書類調査」では、過去の運転データや維持管理の記録、点検補修の履歴、各種分析結果などを整理し、これまでの状態を把握します。「現地調査」では、建物や水槽、設備、装置の劣化状況を確認します。また、処理工程ごとの水質検査や、脱臭装置の点検も実施します。「処理機

能等の評価」では、過去の運転データと現在の状況を比較し、処理機能がどの程度維持されているかを評価します。「改善案の提示」では、検査結果をもとに設備の状態を「良・要補修・要交換・改造」の4段階で評価し、施設がこれらも安全で安定して稼働できるような改善策を提案します。

環境計画課 田中日出夫



現地調査を行う職員

この精密機能検査を通じて、わたしたちの暮らしを支える廃棄物処理施設が、安心して使われ続けるよう、見えないところで守り、地域全体の環境保全につなげていきます。

有益成分ポストバイオティクス 腸から始まる健康習慣

①善玉菌を増やす

善玉菌 (乳酸菌、ビフィズス菌)



+

②善玉菌が働くためのエサとなる

食物繊維 オリゴ糖

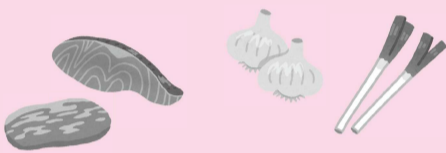


↓

ポストバイオティクス

腸内細菌 (善玉菌など) の働きを活性化させる

ビタミン B1 アリシン



このポストバイオテ

クスは、乳酸菌やビフィズス菌などの善玉菌が食物繊維を分解する過程で作り出した代謝産物で、生きた菌でなくても健康効果が期待できると今注目されています。善玉菌があればよしということではなく、善玉菌のエサとなる食物繊維とそれを分解する善玉菌の相互作用が重要で、腸内細菌のバトンリレーが不可欠です。

更に働きを活性化させるために、ビタミン B1 (豚肉や鮭) と合わせて吸収率をアップさ

せるアリシン (ニンニクやネギ) をとることも重要です。善玉菌は体に定着しないため、毎日の食事で継続的にとり入れて腸から健康習慣をつくりましょう。

(健康支援課 大坪 沙織)

話題の健康づくり

アラカルト

66 腸活

検診車を最新設備にリニューアル ユニバーサルデザインを意識した受診環境へ

最新の胃・胸部デジタル X 線装置を搭載した検診車が、2026 年 1 月 21 日、当協会に納車されました。

本検診車は、2013 年 2 月に公益財団法人 JKA (※) の補助事業により整備された車両で、今年度、JKA の「2025 年度補助事業 (公益事業振興補助事業)」による補助を受けて、車内の胃・胸部デジタル X 線装置などを更新するとともに、車体全体を再整備しました。



リニューアルした検診車

更新前に搭載されていた X 線装置では、「イメージインテンシファイア (I.I.)」を用いて透視画像を作成していましたが、更新後は「フラットパネルディテクター (FPD)」を採用しました。FPD は、従来の I.I. と比べて鮮明で歪みの少ない画像が得られるほか、撮影に必要な X 線量を低減できるため、受診者の被ばく負担を軽減します。

また、今回の補助事業により、検査支援システム「e-検査ナビ」を



健康クリニック だより 17

導入しました。

このシステムは、胃部 X 線検査中の診療放射線技師からの指示を、多言語対応の文字、合成音声、イラストなどでサポートするもので、外国人の方

や聴力に障害のある方にも、より受診しやすい環境を整えました。併せて、検診車内の更衣室を個室化し、すべての方が安心して更衣できる環境を整備しました。

当協会は、本検診車を十分に活用し、胃がん・肺がんなどの早期発見・早期治療に貢献することで、県民の皆さまの健康維持・増進および健康寿命の延伸の実現に寄与してまいります。



モニターなどで指示できる (多言語対応)

※JKA は、競輪・オートレースの売上金の一部で、社会的課題の解決に取り組む活動を支援している公益財団法人です。

(健康科学センター 石本 雅清)

最近、いつも疲れを感じる人が増えています。その原因の一つに、糖質は足りてもエネルギーに変えるためのビタミン B 群が不足する、新型栄養失調があるかもしれません。

かつて江戸中期から流行した「江戸わづらい」(脚気)は、明治期には国民病とも言えるほど広まりました。細菌説と栄養説の原因論争が続く中、人々は経験的に白米が原因と考え、大麦や糠(ヌカ)、小豆、蕎麦で治していました。そして大正期によく「白米によるビタミン B 不足」と結論が出されました。

お米は、胚乳にデンプン、胚芽や糠には糖代謝に必要なビタミン B 群などの栄養素が含まれています。白米中心で副菜が少ないと、糖代謝が滞り疲労物質が溜まりやすくなります。味覚受容体は複数の栄養素を感知して食欲を調整するため、栄養不足は過食につながります。さ



江戸わづらいと新型栄養失調 代謝にはビタミン B 群



らに当時、精製食品(小麦粉、砂糖、酒)が普及したこともその傾向に拍車をかけました。

現代は、高度に精製された炭水化物や糖分を含む食品が多く、ビタミン B 群が不足しやすい環境にあります。また近年、腸内細菌がビタミン B 群を合成し、大腸の壁から取り込まれる仕組みが確認され、腸内環境の大切さが再認識されています。

白米が主食として定着したのは戦後のことで、古来より稲、粟、小豆、麦、大豆などの五穀が主食でした。これらには、発芽や成長

に必要な栄養素がバランスよく蓄えられており、ビタミン・タンパク質・ミネラル・食物繊維が豊富です。こうした未精製の穀物に加え、納豆、麦味噌、糠漬けなどの発酵食品が現代人の助けになります。

(健康科学センター 診療所長 武生 英一郎)

地球温暖化防止活動推進員誕生

学生を含む5団体13人に委嘱



令和7年12月13日、7月から始まった推進員新規養成研修を受講した5団体13人に、広島県から「地球温暖化防止活動推進員」が委嘱されました。

今年度は、広島修道大学と呉工業高等専門学校との学生も参加し、推進員となりました。同世代への啓発だけでなく、今後の就職活動の際の自己PRなどに、この経験を活かしてもらいたい。

受講者自らが企画・実践した事業を紹介し、新たな誕生した推進員の今後の活躍を期待します。

①広島市地球温暖化対策地域協議会「ペーパー鉛筆をつくる」

古紙を利用したペーパー鉛筆づくりの体験会を行い、延べ千人以上が参加しました。ペーパー鉛筆を作ったこと、資源の再利用や温暖化対策などの環境問題を知ってもらい、課題解決に向けて行動できる人材を育成しました。

②脱温暖化プロジェクト「せら」グリーンカーテンを楽しもう」

ゴーヤ、オーシヤンブルー、小玉スイカでグリーンカーテンを作り、夏を涼しく、楽しく過ごしました。グリーンカーテンで育てた小玉スイカは、保育園児と美味しくいただき、子どもたちにも喜ばれました。

③脱温暖化福山中央地域協議会「うちからバ

リアーズ」住宅の断熱を手軽にDIYできるハモニカーボを使用して、希望者の家に内窓を設置しました。また、窓からの光が反射して、手元が明るく過ごせる利点も発見できました。



地域支援課では、全県共通事業重点メニューとして実施している「STOP!フレイル事業」の一環で、椅子に座ってできる体操を収録したDVDを作成しています。現在、「リフレッシュ体操」と「つまずき予防体操」の2本があり、いずれも10分弱の短い体操動画となっています。

①はじめに 次号から、このDVDに収録している体操を紹介します。ちょっと一息つきたい時や気分転換をしたい時などに、体を動かしてみませんか？

①府中町脱温暖化市民協議会

リユース市で「モノ」の循環 環境問題に関心を持つ機会にも



地球温暖化対策地域協議会「TEAM」は、日常生活からの温室効果ガス排出量削減に向けて、地域の実情に合った実効性のある取り組みをしています。広島県には21の「TEAM」が設立されており、今回は、「府中町脱温暖化市民協議会」の活動を紹介します。

令和8年2月1日(日)に、くすのきプラザ(府中町本町)にて、府中町脱温暖化市民協議会主催で、「緑の仲間フェスタ」が開催されました。今年で17回目となります。

環境に良い!をテーマにした環境イベントで、府中町公衆衛生推進協議会のほか、中

国計器工業株式会社、府中町おもちゃ病院など、9つの団体・企業がブース出展をしました。

「府中町脱温暖化市民協議会」は、毎年「リユース市」を出展しています。衣類や家庭用品など、自分では使わないが、まだ使えるものを住民から提供いただき、必要な人に譲渡しています。モノを譲りたい人や、モノを持って帰りたい人で、受付時間の前から列ができるほど大好評な取り組みです。

「府中町脱温暖化市民協議会」の武田代表に、「リユース市」のお話を聞いたところ、「持ってきていただいたモノを仕分けする作業はとて大変ですが、衣類や子どものおもちゃなど、大変喜ばれます。」とのことでした。

リユース市は、モノを捨てずに循環させるサーキュラーエコノミー(循環型経済)の身近な実践の場であるほか、地域のつながりで環境問題に関心を持ってもらう機会となります。(脱温暖化センターひろしま)



来場者でにぎわうリユース市

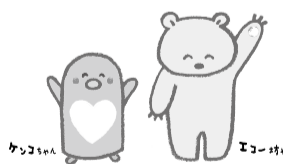
令和7年度環境と健康のポスター・標語コンクール 受賞作品展

令和7年度の環境と健康のポスター・標語コンクールで受賞した120作品の展示会を、下記の日時・場所で開催します。

ぜひ会場にお越しいただき、子ども達の作品をご覧ください。

日時	開催場所	
3/14(土)~3/15(日)	福山	さんすて福山 (1階 ローズガーデン)
4/4(土)~4/5(日)	廿日市	ゆめタウン廿日市 (3階 紀伊国屋書店前)

令和7年度 地区衛生組織活動資金募集 『環境・健康募金』



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和7年度で66回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として、地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)

41,740,030円 (令和8年1月末実績)



環保協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【食品ロス削減事業】

脱温暖化・快適な環境づくりの一環として、「食品ロス削減(2000年度と比べて、2030年度に半減)」を目的に、食品ロス削減に取り組む公衛協を支援します。

食品ロス ZERO マスター 食品ロスについて、興味を持ち、理解しながら楽しめるカードゲームです。(対象年齢：小学校高学年以上)



市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,361,450	102.1
海田町	1,682,341	84.6
熊野町	1,411,200	106.5
坂町	323,481	102.3
江田島市	1,573,750	98.0
竹原市	1,463,000	97.9
大崎上島町	279,700	99.0
大竹市	2,127,090	94.0
廿日市市	2,788,071	85.7
廿日市市大野	2,389,678	94.9
廿日市市佐伯	269,865	83.6
廿日市市吉和	39,100	94.7
廿日市市宮島	176,200	94.8
安芸太田町	626,150	98.7

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	973,570	97.2
安芸高田市	1,788,779	100.7
東広島市	3,882,699	95.5
三原市	1,244,048	85.7
世羅町	720,680	98.3
尾道市	3,982,782	95.7
福山市	7,741,480	93.0
府中市	981,290	97.9
神石高原町		
三次市	1,808,301	105.4
庄原市	2,044,872	93.4
その他	60,453	99.9
合計	41,740,030	94.1

市町別一覧表

※この表は、令和8年1月末日現在、各市町公衛協から募金委員会に報告のあった募金額を記載しています。